

## 2025 年度 三大学における相互評価結果について

学 長 高橋 徳行  
(内部質保証委員会委員長)

本学は、毎年の自己点検・評価の信頼性と妥当性を高め、内部質保証システムの一層の充実へつなげていくため、旧制高等学校をルーツに持つリベラルアーツ五学園(学習院大学、成蹊大学、成城大学、武蔵大学、甲南大学)の中で大学規模が近く同系列分野の学部を設置する成城大学との相互評価を 2016 年度より開始しました。さらに、2023 年度からは甲南大学が加わり、武蔵大学、成城大学、甲南大学の三大学における相互評価として実施しています。

今年度は、各大学が評価を希望する取組について、提出資料に基づく書面評価や対面での意見交換を行い、本学は、2027 年度以降のアセスメント・ポリシー素案について、成城大学より別紙のような評価を受けました。

内部質保証委員会では今回の評価結果を踏まえ、進捗が不十分と判断された点について担当部局とも調整しながら、引き続き改善に取り組む予定です。

本学では、今後も学園建学の「三理想」を踏まえ、「入口」(入学者選抜)から「出口」(学位授与)まで、3ポリシーに基づく一貫性のある大学教育を施し、自己点検・評価を重ね、絶えず改善に取り組んでまいります。

以 上

## 武蔵大学に対する相互評価結果

### I 総評

武蔵大学の学部アセスメント・ポリシー改定素案は、学生の学修成果を可視化し、教育成果を測定・評価することで、学内の教育改善を進めることについて、明示されているといえる。

具体的には、教育成果を、機関レベル（大学全体）、課程レベル（学部・学科・コース）、科目レベル（各授業）の3つのレベルに分け、それぞれのレベルにおける指標・方法等が明記されている。また、その測定・評価結果は、内部質保証制度の運用を通じて教育改善につなげることでされており、武蔵大学における学修成果の把握・測定については、おおむね適切に運用されているといえる。

ただし、学生の学力の「伸び」をどのように測定・評価するのかといった点が明記されていないことや、アセスメントテストで測定する「思考力」とDPの対応関係等、改善の余地があるため、今後の検討が望まれる。

### II 概評

#### ① 学修成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。

武蔵大学における「学部アセスメント・ポリシー改定素案（2027年度～）」は、学修成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているといえる。ただし、検証手法をどのように活用し、これにより、どのような成果が把握できるのか、第三者の視点から見ると、やや曖昧になっている点があるといえる。これらの点を明らかにすることにより、各学部において測定・評価結果をどのように活用するのか、その考えが明確になるものと考えられる。

#### ② 学修成果を把握・評価する指標や方法は、ディプロマ・ポリシーに定めた学修成果に照らして適切なものか。

武蔵大学における「学部アセスメント・ポリシー改定素案（2027年度～）」は、学修成果を把握・評価する指標や方法について、ディプロマ・ポリシーに定めた学修成果に照らしておおむね適切であるといえる。ただし、アセスメントテストで測定する「思考力」とDPの対応関係については、改善の余地があると窺われるため、検討いただきたい。また、「全学ディプロマ・ポリシーに関する具体的な評価方法」に関し、各学部のディプロマ・ポリシーとの対応が不明瞭なため、今後、検討いただく必要がある。

さらに、学生が自身で学修状況を把握する必要性や学生の学力の「伸び」をどのデータで把握するのかといった点について、第三者の視点から見ると、やや曖昧であるため、これらの点について明記すること等を検討いただきたい。

以上